研修会・講演会のご案内

◆ 定期研修会　　参加費：会員無料、非会員 1,000 円
「子どものそだち研修会」　H27 年度 第 1 回　4 月 22 日（水）18：30　会場未定
子どものこころの健やかな成長を支援するスクールカウンセラー、児童支援員等のための研修会です。事例検討、講義等を通して学び、子どもの支援者ネットワークとしても生かされます。
参加資格：守秘義務を課せられた専門職の方が参加できます。初めて参加される方は Be サポートまでご連絡ください。

Be サポートからおしらせ

◆ カウンセリング・心理検査料金改訂について
2 月の理事会にて承認を受け、平成 27 年 4 月より上記料金改訂を行います。経過措置は 5 月末日までとなります。
詳細は Be サポートまでお問合せ下さい。
◆ NPO 法人 臨床心理オフィス Be サポート　第 4 回総会
平成 27 年 5 月 17 日（日）16：00　　さんさんホール
Be サポートの運営や方針についての審議、役員選任などを行います。詳細は後日送付される書類を必ずご確認ください。

Be サポート業務一覧

相談・カウンセリング事業
カウンセリング、プレイセラピー、心理検査

医療・保健・福祉・教育等 地域機関への協力
静岡県精神保健福祉センター（ひきこもり相談）
市民メンタルヘルス相談
母子保健事業（乳幼児健診・発達相談・療育教室）
教育委員会（就学指導・特別支援教育・巡回相談・講師）
県立高等学校（スクールカウンセラー）
NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター
社会的養護関係施設第三者評価事業
静岡県自殺対策緊急強化事業ゲートキーパー研修

被災者支援事業
東日本大震災被災者支援活動「OHANA」

企業・事業所への支援事業
メンタルヘルスカウンセリング
自死後のメンタルヘルス緊急支援
企業研修会への講師派遣

研修・啓発事業
専門職対象の定期研修会開催
一般市民対象の講演会開催

児童発達支援事業
障害児・者総合サポートセンター　みつばち
（児童発達支援「あんず」・放課後等デイサービス「かりん」
保育所等訪問支援・指定計画相談支援・指定障害児相談支援）

平成 26 年度 11 月～3 月期　　依頼協力事業
静岡家庭裁判所沼津支部研修会　11 月 21 日　講師
沼津社会福祉協議会研修交流会　2 月 5 日　講師
コミュニティ・フォーラム 2015　地域で紡ぐセーフィティネット　2 月 14 日 パネリスト
こころほっとプロジェクト　インターネットカウンセリング試験事業　2 月 15 日～3 月 8 日

Be サポート 会員募集

Be サポートは、正会員 51 名、賛助会員 14 名（2015.1 現在）で活動しております。NPO 法人とは利益を目的とせず、社会や地域社会のニーズを追求し応える活動を行う団体です。Be サポートは専門的な視点から地域のさまざまなこころの問題に取り組んでいます。私たちの活動を応援してくださる会員の方を募集しております。会員の方へは会報誌の送付、研修会や講演会の参加費用割引が適用されます。また地域で働く援助職の方には、ネットワークづくりとしても活用していただいております。

☞ **会員登録を希望される方は Be サポート事務所までご連絡ください**

特定非営利活動法人　臨床心理オフィス　Be サポート

クローバー通信

2015 年 4 月 1 日発行　Vol.8

NPO 法人 臨床心理オフィス Beサポート
〒4100056 沼津市高島町 29-1 盟萌ビル 201
Tel/Fax　055-925-1701
Mail　be-sapo@mail.wbs.ne.jp
HP　http://be2011.jimdo.com/
発行責任者　皆川行寛

巻頭言　5 年目を迎え思うこと　理事長　皆川行寛

平成 27 年 3 月 11 日、各マスコミが東日本大震災から 4 年が経過したことを大きく報道していました。このニュースが流れると、被災された方々の 1 日も早い復興を願うとともに、我々が NPO 法人を立ち上げて 4 年という月日が経過したことに気づきます。

設立準備に奔走していた頃、地域のニーズに素早く対応した地域貢献を行うためにはどのような形態・事業内容がよいのかなどの議論を交わしたことが思い出されます。株式会社も選択肢にありましたが、より直接的に広く市民活動を行うために NPO 法人としての活動を決めました。その頃、3.11 東日本大震災が勃発。事務所を静岡県東部総合庁舎に近い場所に立ち上げ、カウンセリングや心理検査以外にまず取り組んだ事業が東日本大震災被災者支援「OHANA」でした。OHANA は、震災により静岡県に避難されているご家族の交流の場として発足しました。今現在は単なる交流の場ではなく、ご家族同士が支え合い、また子どもたちが自分らしく過ごせる発信地になっているように感じています。我々の事業は OHANA と共に歩んできたといって過言ではないと思います。これからも、形は変われども原点を忘れず OHANA は法人事業の一つとして続けていきたいと思っています。

中核業務の心理カウンセリングと心理検査はこれまで順調に増加していたのですが、昨年度、発足後初めて減少してしまいました。原因として考えられるのは、事業拡大に伴いオフィスの開所日を一日減らしたこと、担当のカウンセラーの数が減ったことなどが考えられます。需要はあるだけに、今後改善していきたいと考えています。

地域・行政からの業務委託・業務依頼は増加しており、法人の知名度・信頼度が向上していることを強く感じます。近隣市町の健康増進課・母子保健事業、教育委員会の巡回相談、県の委託事業、ゲートキーパー養成講座やストレスマネジメント講座の講師、教員研修、地域フォーラムのパネリスト、社会福祉協議会への参加（研修、第 3 者評価事業、原稿執筆）など、内容も多岐にわたります。

平成 26 年 4 月には、静岡県と沼津市に認可され障害児・者総合サポートセンター「みつばち」を開設しました。開設の主目的は子どもたちが小学校に入学した時に少しでも困らないよう、早期に専門療育を始めることです。また障害児・者の相談支援事業所も同時に開設しました。県東部地区には様々な専門家チームで療育する施設が少ないだけに、経験を積み上げ実力をつけて子供・保護者の役にたてる施設づくりを目指そうと思っています。

私は理事長として、法人の安定的な事業運営と、市民にとって有益な活動を両立させていくことが NPO 法人の存在価値として必要不可欠なことと考えています。それを念頭に置き、バランスのとれた事業運営をして参りたいと思っています。

何はともあれ、これまで活動を続けていられるのは、会員様、住民の皆さま、そして各自治体の皆様のおかげと心より感謝申し上げる次第です。また、日頃からご助言頂いている静岡大学大学院教授江口昌克先生、常葉学園浜松大学大学院教授前田正先生、NTT 東日本伊豆病院リハビリテーション精神科部長安田秀先生に感謝申し上げます。

活 動 報 告

インターネットカウンセリング試験事業　こころ♡ほっとプロジェクト

Beサポートでは、ご予約の上相談室にお越しいただくという「来談カウンセリング」を実施しております。しかし、どこに相談して良いかわからない／相談室でのカウンセリングには少し抵抗がある／引きこもっていて相談に行くことができない、など、来談カウンセリングへの敷居がまだまだ低くはないことを実感しています。

このたび、同様の調査研究を発表している当団体の顧問・静岡大学江口昌克教授と、心の問題解決に理解関心のある企業様の申し出を得て、2月15日～3月8日までの約3週間、インターネットのシステムを活用したカウンセリングサービスを試験的に実施いたしました。具体的には、メール、LINE、ネット電話による匿名での相談で、私たちが普段行っている言葉や表情でのコミュニケーションとは全く違う、初めての手さぐりでの試みでした。残念ながらご利用はあまり多くはなかったのですが、手応えは十分にあり、新しい心の支援の形態の可能性を感じることができました。今後に生かしていければと考えております。

活 動 報 告

自殺対策補助金事業　ゲートキーパースキルアップ研修会

年間３万人に迫る自殺者の増加を食い止めようという国の施策の一環として、静岡県地域自殺対策緊急強化基金事業の補助金を頂き、「ゲートキーパースキルアップ研修会」を、昨年に引き続き、県内４か所で開催することができました。

自殺対策における「ゲートキーパー」とは、悩みを抱える方を孤立させないために、①声を掛けて②話を聴き、③必要な支援につなげ、④見守る、という役割のことを指します。このような役割は、かつては近所の人やお店屋さん床屋さんなど、地域で担ってきたのだと思われます。しかし生活スタイルが多様化し、地域のつながりが薄くなってきている現在社会では、人々は悩みを持っていても誰にも言えずに孤立しがちで、最悪の場合には絶望の末に自殺に追い込まれるということが考えられます。

Be サポートでは、この「ゲートキーパー」の４つの役割をより意識的に有効に担っていただくために、必要な知識と実際的なスキルの習得を目的として、実際の例などを盛り込みながら、研修会を進めました。

研修会の参加者の数は予定に達しませんでしたが、日頃相談業務に携わっている方や、介護施設職員などの援助職の方に多くご参加いただきました。研修会でのご質問も活発でしたし、アンケートでは「1 回の初級講座ではわかりにくかった実際場面での対応の仕方を聞けて良かった」「うつ病などの知識やメンタルヘルス理論が聞けて良かった」「受容し寄り添うことの大切さがわかった」「非常に具体的でわかりやすかった」などの感想を頂くことができました。

静岡県健康福祉センターのご担当者からは、次年度も継続して開催してほしい旨の評価を頂き、今後も県の自殺対策事業への協力を継続していく方針でおります。

働く人のためのストレスマネジメント研修会

Be サポートには、仕事の過剰な負荷や職場での人間関係のうまくいかなさからストレス過多の状態になり、うつ病等を患っている方が多く来談されます。また、発達障害の傾向を持っている方は、コミュニケーションの苦手さから仕事や対人関係での悩みを抱えやすく、そのことによりうつ状態になってしまったケースもあります。

当事業は、ゲートキーパースキルアップ研修会と同じく、静岡県地域自殺対策緊急強化基金事業の補助金によって実施した事業です。自殺者の多くが 30～50 歳代男性という働き盛りの世代であるという現状を踏まえ、職場の中でのメンタルヘルスを向上させていくことが自殺対策につながると考えたからです。

今回の研修会では、ストレス対処についての基本的な知識を理解していただくとともに、うつ病について正しい認識を持ち職場で適切な対応をしていただけるよう、お話をさせていただきました。また、発達障害の傾向のある従業員に対する理解を深めることにも重点に置きました。

研修会に参加された方の質疑応答やアンケートでもやはり、「自分の職場内にうつ病の方がいて対応が難しい」「自分自身がうつ病で退職せざるを得ない状況になった」「発達障害傾向のある人への対応に苦心している」という声が聞かれました。今後は、うつ病の従業員への対応や復職の方法、発達障害の傾向を持つ従業員への対応について、それぞれ単独の研修会を企画することも考えていきたいと思っております。

みなさんのお仕事　教えてください！第１回　「乳幼児健診」についてうかがいました

乳幼児健診とは、乳児期は厚生労働省の通達、幼児期の場合は母子保健法の規定により市町が乳幼児に対して行う乳幼児健康診査のことをさします。主に生後 3～4 ヶ月、10 ヶ月、1 歳 6 ヶ月、3 歳児に対して行われており、よりきめ細やかに 2 歳児、5 歳児に実施する市町もあります。項目は、身体の発育状況、栄養状態、歯及び口腔の疾病及び異常の有無、精神発達の状況等があります。なお、疾患や障害の早期発見だけでなく、子育て支援上の社会資源の一つとしても位置づけられています（平岩,2006）。

Be サポートでは、1 歳 6 ヶ月、2 歳、3 歳、5 歳児健診に関わっています。発達の確認や子育て上の心配事についてお話をうかがい、助言をしたり事後教室等のご紹介をしています。健診後には、保健師や栄養士、歯科衛生士、心理士等スタッフ全体で申し送りをし、お子さんの様子を全体的に理解していきます。

健診会場では、笑顔のお子さんもいれば、恥ずかしがり等様々なお子さんがみられます。お子さんにとって、楽しい場であれば不安でいっぱいの場かもしれません。また、養育者の方にとっては、相談できる場である一方で、何か言われるのではと心配される場であるかもしれません。こうした様々な思いを汲み取り、真摯に向き合っていけるよう努めています。

参考文献：平岩幹男(2006).乳幼児健診ハンドブック　診断と治療社

活 動 報 告

障害児･者総合支援センターみつばち

障害児・者総合サポートセンターみつばち（以下、みつばち）を設立し、早くも放課後等デイサービス「かりん」が１年、児童発達支援「あんず」が７ヶ月経とうとしています。平成 27 年１月以降、新年度に向けて「あんず」「かりん」共に、利用の問い合わせや見学を希望される方が増えてきています。

特別、派手な広告を打ち出したわけではありません。利用者からの口コミや、例年行っている発達障害の講演会に参加された方から、問合せがきている状況です。実際にみつばちで行っている療育を評価していただき、お申込み頂けていることは、我々スタッフにとっても大変励みになります。

みつばちを利用するお子さんたちには保護者の方が各々心配されていることがあります。言葉の問題、コミュニケーションの問題、ルールの理解の問題などです。「あんず」の手作りの療育、「かりん」の熱心な学習・生活支援など、スタッフの子どもへの思いと工夫により、継続的に利用しているお子さんたちには、それぞれ成長がみられます。保護者からは、「話そう、伝えようとする様子が増えました。」「今までより積極的になったようで、雰囲気が変わりました。」「毎回注意しても変わらなかったのに、家族以外の人に言われたことで、気にするようになりました。」などの声を頂いています。継続的な一貫した支援がいかに大切で、効果的かを実感する瞬間です。

今年は未年ということもあり、スタッフが羊の壁面をつくってくれました。スタッフ作成の大きな羊の周りを「あんず」と「かりん」の子どもたちが製作した、小さなフワフワした羊さんたちが囲みます。スタッフと子どもたちの仲の良い様子や、ホッとできる安心感のある雰囲気が現れているようで、とても素敵な壁面になっています。

今年度は新しいお友だちを迎えてスタートが切れそうです。賑やかな様子をぜひ一度見に来ていただければと思います。

東日本大震災被災者支援事業　OHANA

2014 年度後半の OHANA の活動についてご報告します。

11 月には箱根･熱海の 1 泊旅行を開催しました。箱根旅行は OHANA メンバーさんの期待が高く、待ちに待った会となりました。初めて参加して下さった方も多く、OHANA の絆の広がりを感じた旅でもありました。人気の海賊船に乗り、大涌谷で黒たまごを食べて長寿を願います。噴煙が湧き上がるところまで行った子は自慢の思い出になりましたね。湿性花園では、子どもたちが葉っぱのスタンプラリーでカエデやモミジの葉を探して自然の中を探検しました。夜は熱海の旅館へ宿泊です。女の子はカラオケで大盛り上がり、男の子はお母さんと離れての入浴も平気となり、卓球も腕を上げ、ご飯もたくさん食べるなど、以前と比べてずいぶんとたくましくなったようです。

子どもたちが仲間と楽しむ中、大人はそれぞれ日頃感じていることを共有し、OHANA の中だからこそ語れる悩みや思いを分かち合っていただけたように思います。

12 月 23 日は恒例のクリスマス会でした。Be サポ会員さん等からの差し入れや助成を受けて、賑やかで楽しい会を開催することができました。ゲームに参加してドキドキしたのは子どもたちだけではありません。大人の方も童心にかえっていただきました。翌日からは、働くお母さんをサポートするための冬休み子ども預かり事業業「OHANA 学校」がスタートしました。

2015 年 3 月 11 日、東日本大震災から 4 年を迎えました。3 月 14-15 日で行われた 1 泊旅行では福島県避難者支援課の担当も参加され、公的支援の現状や見通しについて説明を受けました。時間がたつにつれて減っていく支援、コミュニティでの関係の変化、将来のこと、それぞれの思いが交錯し、共有する貴重な時間になっていたように感じられました。また、入学・卒業・就職など OHANA の子どもたちの成長を通してみると 4 年は早く感じられ、一方で復興の遠さを思わずにはいられません。Be サポートは OHANA という形で、柔軟かつ変わらぬ支援を続けていきます。

Be サポ会員掲示板

☆　あたらしく会員さんからの自由な情報発信欄を設けました　☆

みなさまが行っている様々な活動の報告や広報などに気軽にご利用いただけます！

「こんなことしています！」「イベントがあります！」「ぜひ一緒に参加してみませんか？」など

投稿ご希望の方は、Be サポートまで、電話･メール･FAX などでお知らせください。